

青森県における周産期医療センターの配置試案

(東北6県の出生数とその分布を含めて)

(分担研究班：周産期センターの適正な配置と内容の基準に関する研究)

研究協力者：千葉 力¹⁾

要約：青森県は平成5年の人口147万、出生数14,357の本州最北端の県である。青森県の周産期医療施設（新生児、産科）の現状を調査した。人口100～150万を1つの周産期医療圏とした周産期医療センターの設置基準に基いて青森県の試案を作成した。さらに東北6県の人口、出生数、保健所別の出生数と各県における割合を調査した。

見出し語：青森県、周産期医療施設の現状、周産期医療センター配置試案、東北6県の出生数の分布

1. 研究目的

厚生省研究班から地域の周産期医療システムについて、周産期医療センターの整備に関する基準が示されたので、青森県における現状調査と、基準に沿って配置試案を試みた。

さらに、東北6県の他の県についても出生数の分布を1993年について調査した。

2. 方法

青森県内には全部で8市あり、旧3市と新5市とに分けられる。8市で新生児を診療している全ての病院にアンケートにより、1993年の1年間の状況を調査した。この調査結果によ

り、人工換気病床を2床以上有する病院の産科については、1995年の1年間について調査した。

3. 厚生省研究班の基準

厚生省研究班によれば、人口100～150万を1つの周産期医療圏として、各周産期医療圏に1カ所の総合周産期医療センターと3～4カ所の地域周産期医療センターを整備することが適当であると提言している。人口100万について、出生数は約1万であり、各医療圏で狭義のNICU20床、広義のNICU100床必要とされる。

1) 青森市民病院小児科

総合周産期医療センターは、狭義のNICU 12床、IMCU 28床、総病床数40床、または狭義のNICU 9床、IMCU 21床、総病床数30床で運営する。

一方、地域周産期医療センターは狭義のNICU 3床、IMCU 12床、総病床数15床で運営する。

4. 結果

青森県内の新生児医療施設の状況は表1の通りである。独立看護単位で3人夜勤の施設は2病院のみであり、ともに人工換気病床4床以上である。産科については表2に示した。

5. 配置試案

配置試案を表3に示した。八戸については地域周産期医療センターよりも規模の大きい、総合周産期医療センターに準じた規模の施設が必要と考えられる。青森県の地図を図に示した。

6. 東北6県における出生数の分布

東北6県における、人口、出生数、保健所別の出生数と各県におけるその割合を表4に示した。

7. 考察と結論

青森県の周産期医療施設の現状と厚生省研究班の基準との間には大きな差がある。基準に沿った試案を試みた。青森県における周産期医療施設の速やかな整備の実現が強く求められている。

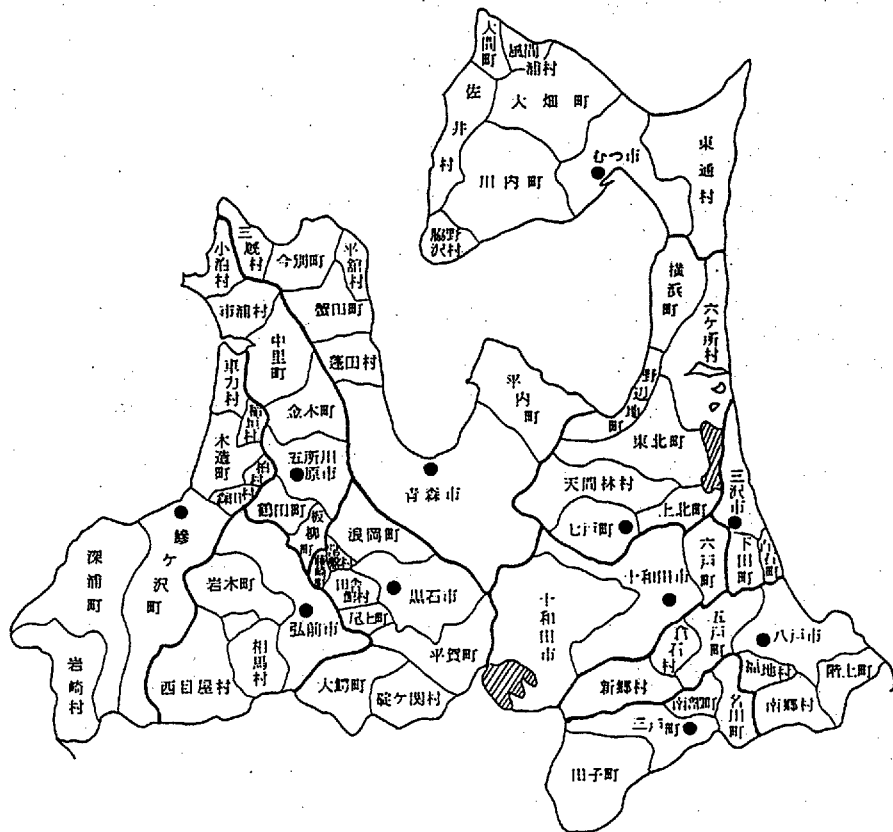


図. 青森県の保健所管轄略図

表 1. 青森県内の新生児医療施設 (1-12)/93

地 区	病 院	母体搬送	院外出生 (うち出迎)	極小未熟児	人工換気	関与医師 (うち専任)	独立看護 (総数、準/深夜)	総 病 床	人工換気 病 床	人工呼吸器
青 森	市 民	44	100 <49>	23	32	4 <1>	○ <24, 3/3>	20	6	9
	県 病	7	6 <0>	4	13	4 <0>	○ <16, 2/2>	8	3	4
八 戸	市 民	44	24 <0>	17	27	5 <1>	○ <23, 3/3>	10	4	4
	日 赤	12	11 <0>	3	11	1 <0>	○ <13, 2/2>	11	3	3
3	労 災	9	31 <0>	0	8	3 <0>	×	4	2	2
	国 病	22	45 <0>	7	10	2 <0>	×	15	2	2
弘 前	弘 大	4	3 <0>	5	7	7 <0>	×	2	2	2
	市 立	0	3 <0>	0	0	2 <0>	×	5	1	1
	健 生	0	8 <0>	4	1	1 <0>	×	4	1	1
む	つ	2	11 <0>	5	15	3 <0>	×	10	3	3
新 十	和 田	0	11 <0>	1	5	2 <0>	×	2	?	2
	西 北	0	17 <0>	1	2	2 <0>	×	6	?	1
5 市	三 沢	1	15 <0>	0	0	2 <0>	×	6	?	1
	黒 石	0	0 <0>	0	0	1 <0>	×	2	0	0

表2. 青森県内の主な産科施設（1/96現在）

地区	病院	医師	助産婦	看護婦	助手	病床	FHRモニタ	年間出生
青森	市民	4	11	13	1/2	50	10	500
	県病	4	24	0		24	5	650
八戸	市民	5	8	10	1	産28	10	500
	日赤	2	18	12	2	48	5	500
	労災	3	10	11		28	6	520
弘前	国病	4	14	9		産26	5	650
むつ	市立	2	11	13	2	44	7	500

注1) 青森県内の新生児医療施設の中で人工換気病床を2床以上有する病院の産科を調査した。ただし弘前大学病院は特定機能病院と見なして除いた。

注2) 「医師」の欄で、八戸市民病院では平成8年4月から4名になる予定。

注3) 「病床」の欄で、「産」は産科用、他は産婦人科用。

表3. 青森県における周産期センター設置の試案

地域（設置所） （医療圏）	青森 五所川原 七戸 むつ	八戸 十和田 三沢 三戸	弘前 黒石 鯉ヶ沢	計
出生数	5,633	5,034	3,690	14,357
周産期センター	総合センター 地域センター	地域センター	地域センター	総合 1 地域 3
狭義のNICU	12 3 計15	9	3	27
IMCU	28 12 計40	21	12	73
狭義を含む 広義のNICU	55	30	15	100

表4. 1993年(平成5年)の人口統計
東北6県における保健所別の出生数

青森県	人口: 1, 469, 445	出生数: 14, 357	保健所別の出生数と割合
青森	3, 033	21. 1%	
弘前	1, 860	13. 0	
八戸	3, 113	21. 7	
黒石	1, 224	8. 5	
五所川原	1, 046	7. 3	
鯉ヶ沢	606	4. 2	
七戸	651	4. 5	
十和田	888	5. 8	
むつ	903	6. 3	
三戸	347	2. 4	
三沢	736	5. 1	
岩手県	人口: 1, 415, 697	出生数: 13, 496	保健所別の出生数と割合
盛岡	4, 790	35. 5%	
花巻・北上	1, 946	14. 4	
胆江	1, 396	10. 3	
一関・大東	1, 391	10. 3	
気仙	759	5. 6	
釜石	821	6. 1	
亶古	964	7. 1	
久慈	784	5. 8	
二戸	645	4. 8	

宮城県	人口: 2, 291, 338	出生数: 21, 833	保健所別の出生数と割合
仙台	9, 684	44. 4%	
石巻	2, 207	10. 1	
塩釜	1, 802	8. 3	
大崎	1, 998	9. 2	
気仙沼	955	4. 4	
仙南	1, 691	7. 7	
岩沼	1, 378	6. 3	
黒川	593	2. 7	
栗原	671	3. 1	
登米	854	3. 9	

秋田県	人口: 1, 216, 966	出生数: 10, 346	保健所別の出生数と割合
大館	1, 152	11. 1%	
鷹巣	362	3. 5	
能代	830	8. 0	
秋田	3, 845	37. 2	
本荘	1, 126	10. 9	
大曲	1, 307	12. 6	
横手	951	9. 2	
湯沢	773	7. 5	

山形県	人口: 1, 254, 232	出生数: 11, 806	保健所別の出生数と割合
山形	3, 575	30. 3%	
寒河江	856	7. 3	
村山	956	8. 1	
新庄	947	8. 0	
酒田	1, 569	13. 3	
鶴岡	1, 529	13. 0	
長井	663	5. 6	
米沢	1, 711	14. 5	

福島県	人口: 2, 124, 321	出生数: 21, 686	保健所別の出生数と割合
福島	2, 990	13. 8%	
保原	912	4. 2	
二本松	1, 086	5. 0	
郡山	3, 666	16. 9	
三春	774	3. 6	
須賀川	1, 004	4. 6	
石川	562	2. 6	
白河	1, 250	5. 8	
柳倉	409	1. 9	
会津若松	1, 733	8. 0	
喜多方	680	3. 1	
会津坂下	516	2. 4	
田島	319	1. 5	
原町	1, 325	6. 1	
浪江	804	3. 7	
平	2, 183	10. 1	
磐城	881	4. 1	
勿来	592	2. 7	



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:青森県は平成 5 年の人口 147 万、出生数 14, 357 の本州最北端の県である。青森県の周産期医療施設(新生児、産科)の現状を調査した。人口 100 ~ 150 万を 1 つの周産期医療圏とした周産期医療センターの設置基準に基づいて青森県の試案を作成した。さらに東北 6 県の人口、出生数、保健所別の出生数と各県における割合を調査した。